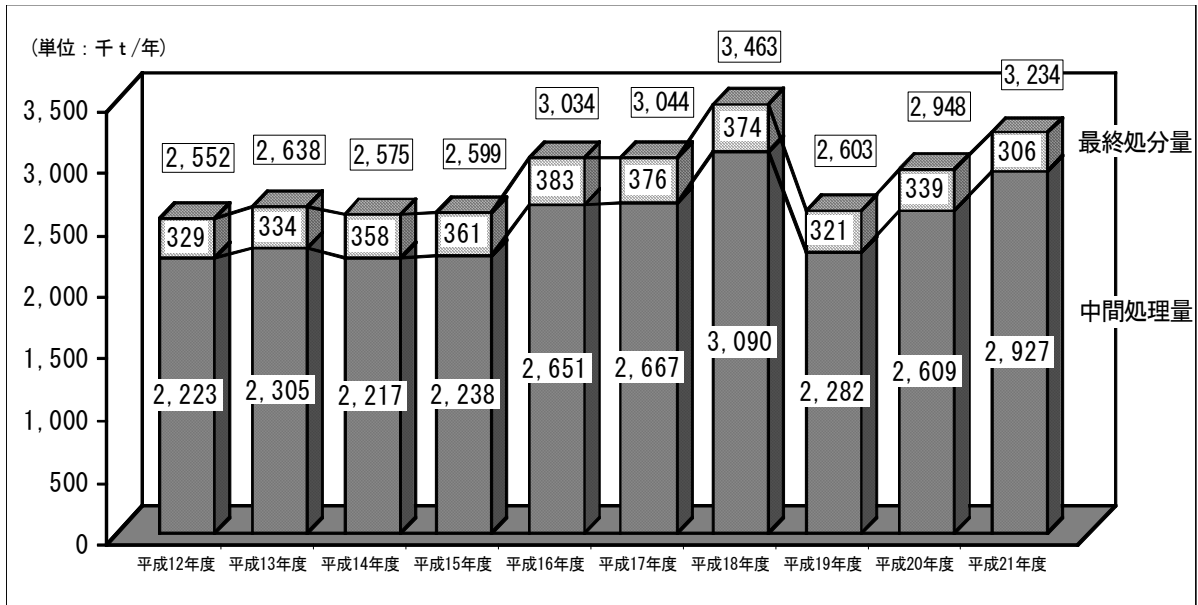


第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第28号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

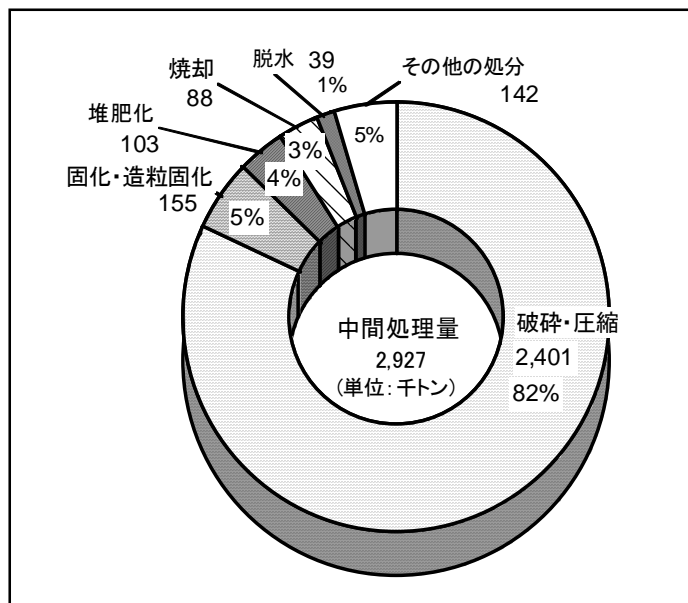
平成21年度の産業廃棄物処理業者の処分量は3,234千トンである。この内、中間処理量が2,927千トン、最終処分量が306千トンとなっている。平成20年度と比較すると中間処理量が318千トン増加し、最終処分量が33千トン減少している。



▲図 3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の中間処理量

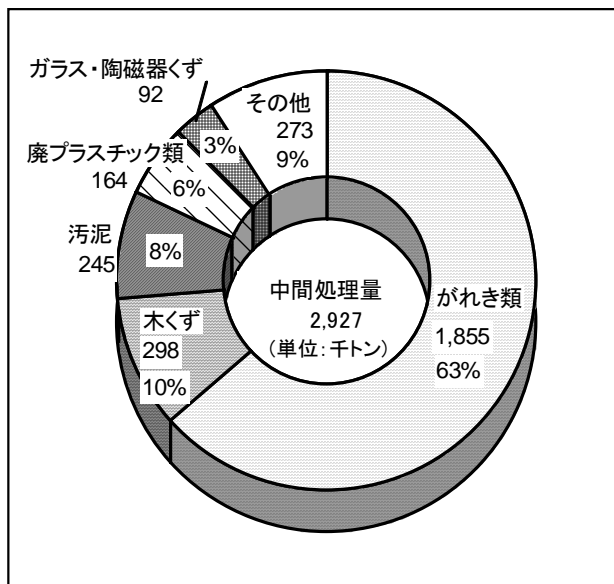
産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が2,401千トン（82%）で最も多く、次いで、「固化・造粒固化」が155千トン（5%）、「堆肥化」が103千トン（4%）等となっている。



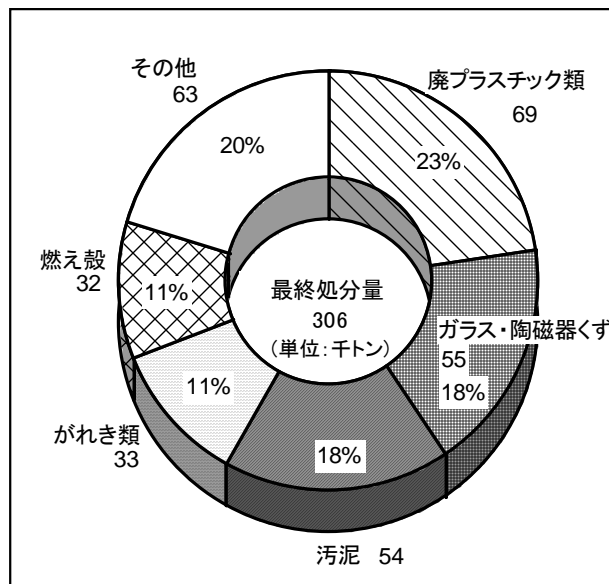
▲図 3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 1,855 千トン（63%）で最も多く、次いで、木くず 298 千トン（10%）、汚泥が 245 千トン（8%）等となっている。最終処分量では、廃プラスチック類が 69 千トン（23%）で最も多く、次いで、ガラス・陶磁器くずが 55 千トン（18%）、汚泥が 54 千トン（18%）等となっている。



▲図 3-1-3 種類別の中間処理量

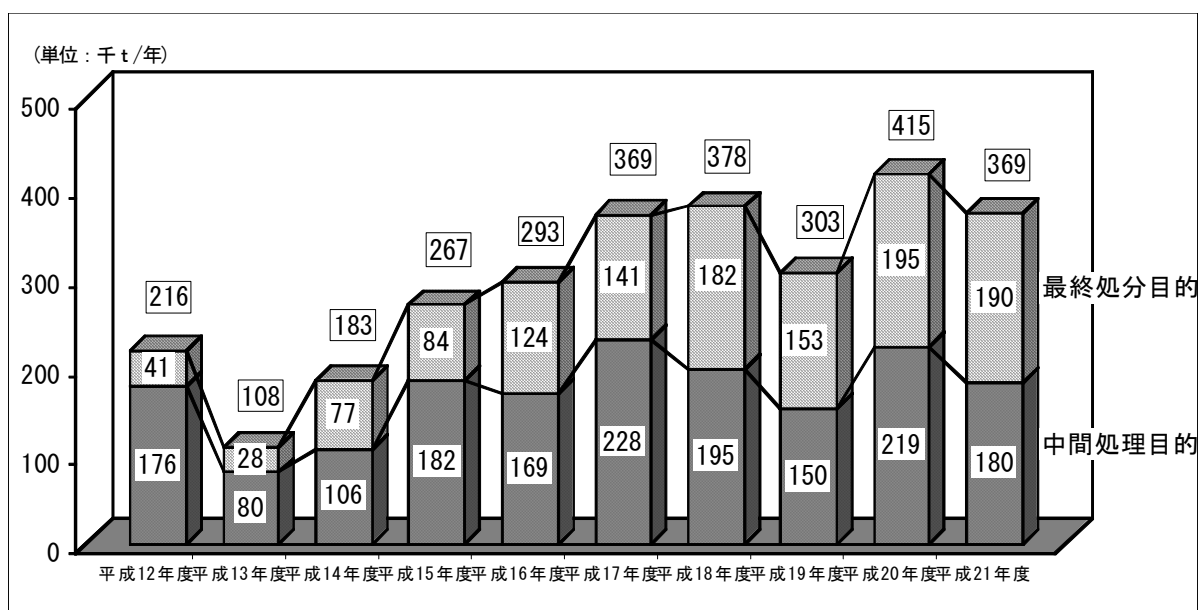


▲図 3-1-4 種類別の最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

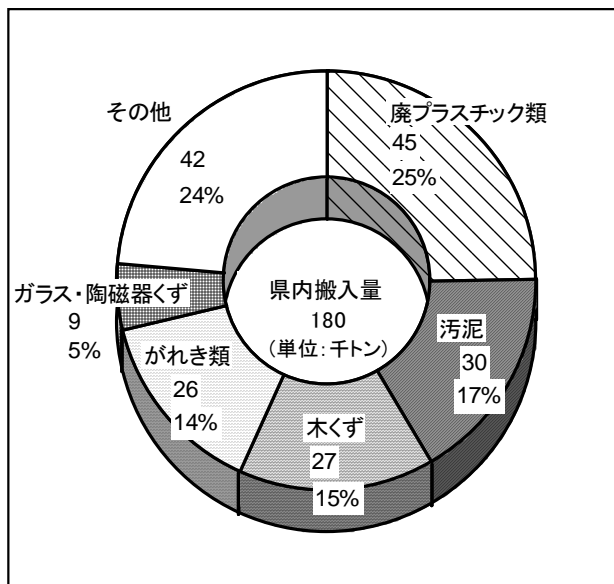
平成 21 年度の県内搬入量は、369 千トンである。この内、中間処理目的が 180 千トン、最終処分目的が 190 千トンとなっている。平成 20 年度と比較すると中間処理量が 39 千トン減少し、最終処分量が 5 千トン減少している。



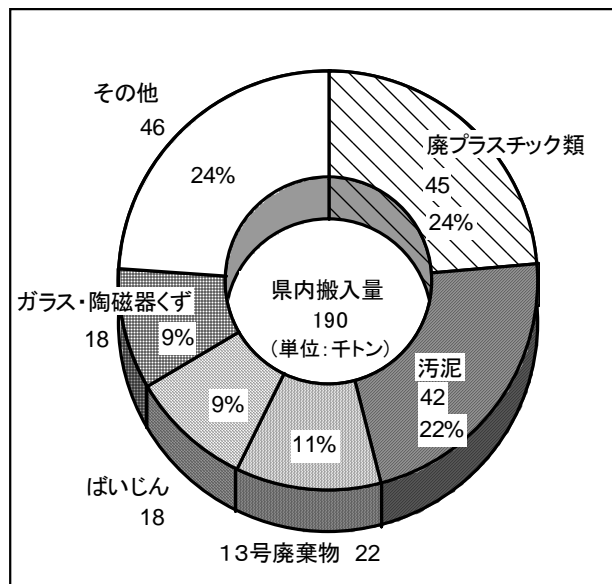
▲図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、廃プラスチック類が 45 千トン（25%）で最も多く、次いで、汚泥が 30 千トン（17%）、木くずが 27 千トン（15%）等となっている。最終処分目的では、廃プラスチック類が 45 千トン（24%）で最も多く、次いで、汚泥が 42 千トン（22%）、13号廃棄物が 22 千トン（11%）等となっている。



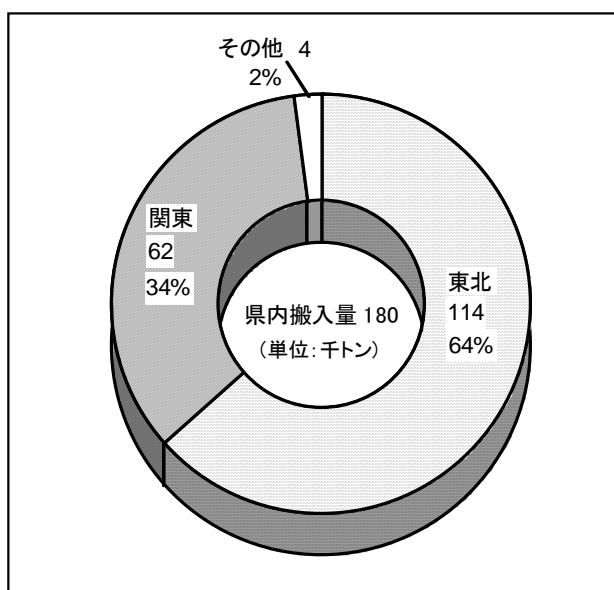
▲図 3-2-2 種類別の県内搬入量（中間処理目的）



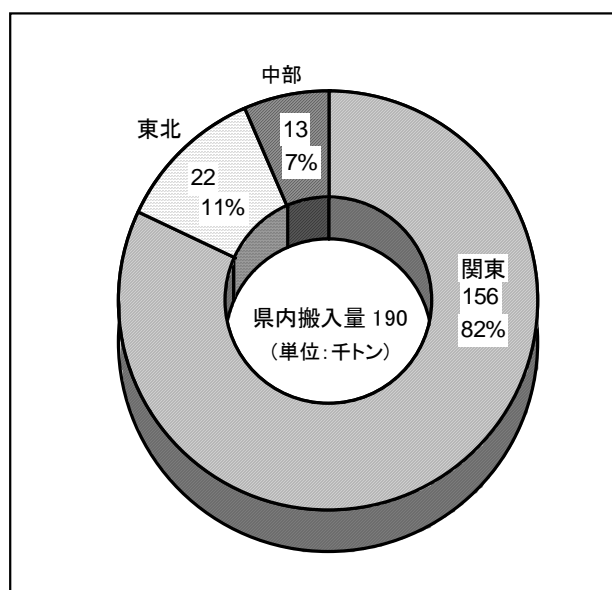
▲図 3-2-3 種類別の県内搬入量（最終処分目的）

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 114 千トン（64%）で最も多く、次いで、関東が 62 千トン（34%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 156 千トン（82%）で最も多く、次いで、東北が 22 千トン（11%）、中部が 13 千トン（7%）となっている。



▲図 3-2-4 地域別の県内搬入量（中間処理目的）



▲図 3-2-5 地域別の県内搬入量（最終処分目的）